

令和2年度 東京都内湾水生生物調査 2月稚魚調査 速報

●実施状況

令和3年2月10日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温は7.0～11.3℃であった。調査地点の風は0～2.0m/sと弱く、城南大橋と葛西人工渚では南寄り、お台場海浜公園では無風であった。調査当日は大潮で、満潮は5時8分、干潮は10時21分であった(気象庁のデータ)。

城南大橋では魚類は採取されなかったが、お台場海浜公園と葛西人工渚ではアユの稚魚が出現し、特に葛西人工渚では40個体前後が採取された。1月調査時と同様の傾向であったが、アユの全長はやや大きくなっていた。

	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	8:30-9:23	9:45-10:35	10:59-12:22
水温(℃)	8.8	10.4	10.5
塩分(-)	30.4	24.8	25.7
透視度(cm)	88	>100	>100
DO(mg/L)	10.4	9.7	10.4
DO飽和度(%)	108.7	102.1	109.7
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	8.0	7.7	7.9
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考	水はやや濁りがあり、網には珪藻類が付着していた。	お台場海浜公園より少ないものの、網には珪藻類が付着していた。	

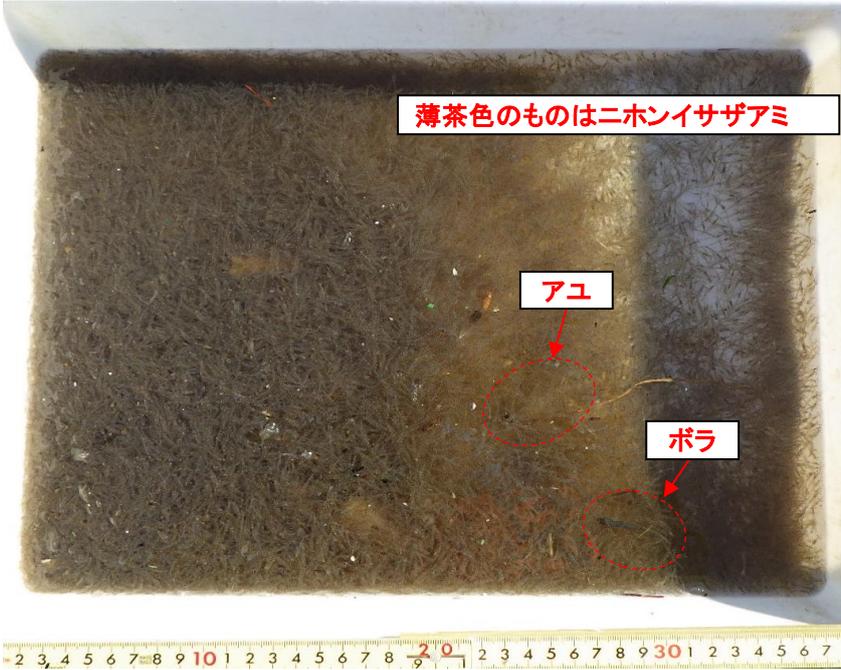
●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種 (多い順 <sup>注</sup> )	アユ(r)	採取されず	アユ(c)
	ボラ(r)		ボラ(c)
			アシシロハゼ(+)
			チクゼンハゼ(r)
魚類以外	ニホンイサザアミ(m)	ニホンイサザアミ(c)	ニホンイサザアミ(G)
	シラタエビ(r)	クロイサザアミ(+)	クロイサザアミ(m)
		エビジャコ属(r)	シオフキガイ(r)
		クーマの仲間(r)	
備考		他にワレカラ属が採取された。	

注) 表中の( )内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000個体以上、m:100~1000個体未満、c:20~100個体未満、+:5~20個体未満、r:5個体未満

# お台場海浜公園 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

レインボーブリッジのたもとにある人工の渚。調査地点周辺では、オリンピック関連の工事が行われていた。

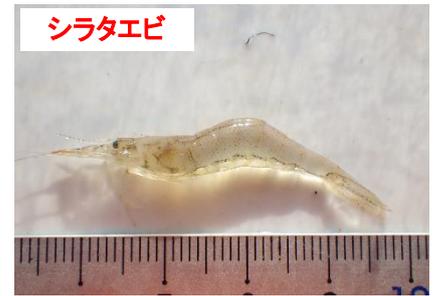
## ●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



内湾の干潟域では最も個体数の多い遊泳魚である。干潟域には早秋から夏にかけて滞在し、徐々に成長する。稚魚の体色は、金属光沢が強い。



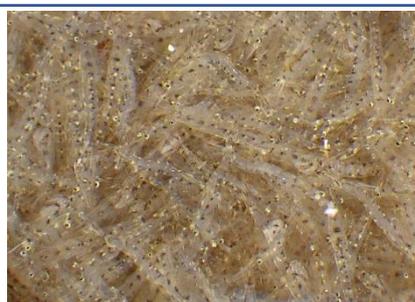
川を遡上する前の稚魚。産卵は夏から秋に河川中流の砂礫底で行われ、孵化後、卵黄を吸収しながら海に流下する。海で生活する間は体の透明感が強い。



体長 7cm 程になる。汽水域に生息しており、青く長い触角を持つこと、額角がトサカ状に盛り上がることで区別が容易だが、本個体は触角が切れてしまっていた。

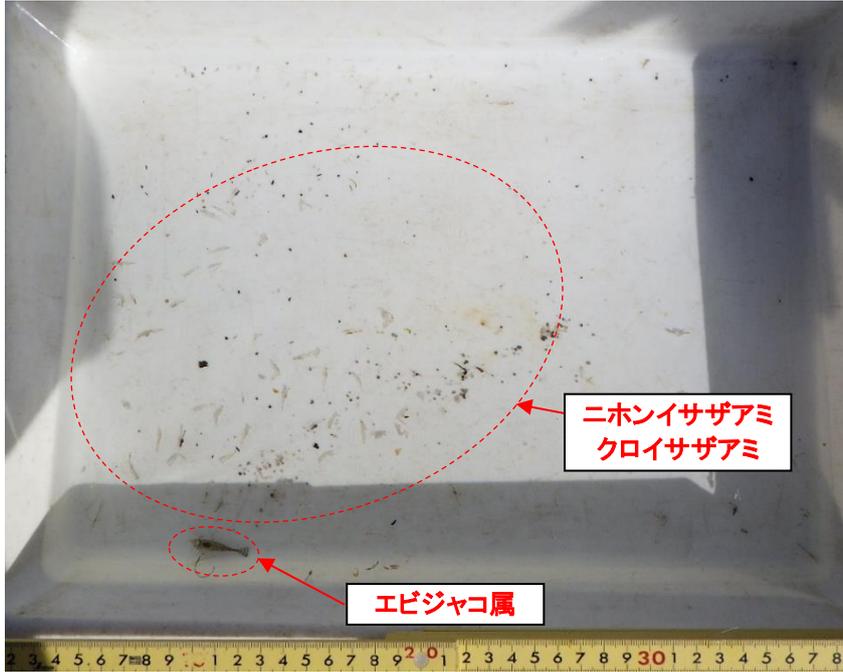


汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要である。お台場海浜公園では、全長 15 mm を超える大型個体が多く採集された。



お台場海浜公園では、網を引き揚げた際、珪藻類が多量に付着していた。赤潮状態ではなかったが、東京湾では、冬季の珪藻赤潮の発生が知られている。

# 城南大橋 採取試料



調査地点の様子



調査の様子

城南大橋西詰めにある干潟。調査時、干潟は干出していなかった。

## ●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体の割に獐猛で、稚魚等を捕食する。



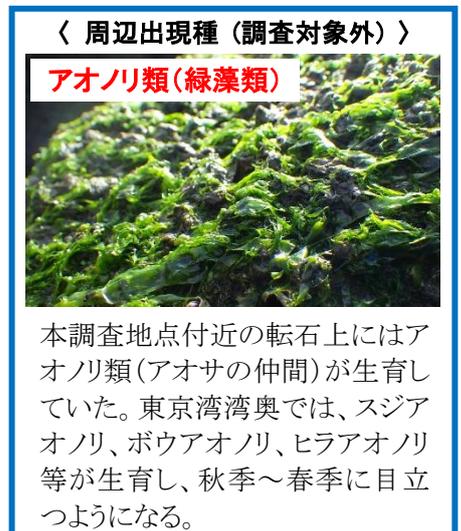
クロイサザアミは、腹部に黒色斑があり、ニホンイサザアミに比べ黒っぽい体色をしている。



小型の甲殻類で、体長は 7mm 程度。長い尾節が特徴である。日中は砂泥中に潜っているが、夜は海面近くに浮上して餌をとる。



小型の甲殻類で、ヨコエビと近縁。海藻やアマモなどにくっついて生活しており、藻場を利用する幼魚の重要な餌となっている。



〈 周辺出現種 (調査対象外) 〉

アオノリ類(緑藻類)

本調査地点付近の転石上にはアオノリ類(アオサの仲間)が生育していた。東京湾湾奥では、スジアオノリ、ボウアオノリ、ヒラアオノリ等が生育し、秋季～春季に目立つようになる。

# 葛西人工渚 採取試料



東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

## ●主な出現種等 ※写真のスケール 1 目盛:1mm



\*解説はお台場海浜公園を参照。  
1 月調査時より大きな個体が増え、体色も銀色の鱗が目立つものが多くみられた。



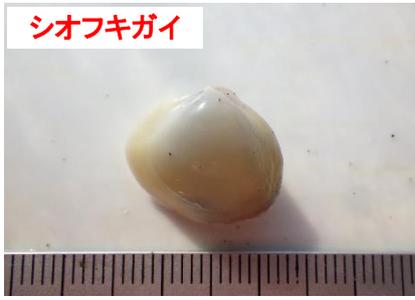
マハゼに似るが、うろこがやや粗く、体側には白色の横帯がある。初夏～秋にかけて、河口域の沈石や貝殻の下面に産卵する。小型の甲殻類を食べるが、春には干潟域に多く出現し、マハゼの稚魚等を食べる。



河口付近の干潟域に生息し、アナジャコの巣穴を隠れ家として利用している。エドハゼによく似るが、体側の明瞭な横斑(トラ模様)や下顎の腹面にひげ状の突起があることで区別できる。



\*解説はお台場海浜公園を参照。



殻長は 5cm 程になる。内湾奥の干潟域等の砂泥底に生息する。殻の色は、白色から紫褐色まで変異が多い。

